

2022年10月14日



コロナ禍で3度目の「ハロウィーン」 行事参加予定者は14.0%と前年より微増の予想 「感染拡大危惧」が大幅減少し、外出自粛モード解除の兆し 2022年「ハロウィーン」への参加意向・賛否の理由等を調査（2022年9月実施）

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）の外食市場に関する調査・研究機関『ホットペッパーグルメ外食総研』（<https://www.hotpepper.jp/ggs/>）は、「ハロウィーン」への参加意向、賛否等に関する意識についてのアンケートを実施しましたので、その結果を発表いたします。

<要約>

POINT1 2022年「ハロウィーン」行事参加予定者は14.0%、前年参加実績を2.0pt上回る

・・・P3-4

▶2022年の「ハロウィーン」行事参加予定者は3圏域計で14.0%。コロナ禍となって2年目の前年の参加実績12.0%と比べると2.0pt上回った。参加予定率は2021年を底に回復傾向と考えられる。

POINT2 「ハロウィーン」の過ごし方、「飲酒」「外食」などが順位上昇

・・・P4-6

▶「ハロウィーン」を一緒に過ごしたい相手、1位「家族・親族（小学生以上18歳以下の子連れ）」8.2%、2位「夫婦2人で」8.1%、3位「友人・知人」「家族・親族（未就学児連れ）」がともに7.3%。「友人・知人」は前年5位から上昇。

▶「ハロウィーン」の過ごし方の希望、1位「家で過ごしたい」19.3%、2位「ハロウィーンスイーツを食べたい」11.1%、3位「飲酒を楽しみたい」8.3%。「飲酒を楽しみたい」は前年5位から順位が上昇。

▶コロナ禍の影響を受けて選んだ「過ごし方の希望」の上位は「家で」「デリバリー・テイクアウト」「外食」「手作りの料理」等。「外食を楽しみたい」は前年8位から順位が上昇。

POINT3 「ハロウィーン」に肯定的な理由、「経済効果」はトップ3に振り返り咲き。

「ハロウィーン」に否定的な理由、「感染拡大危惧」29.2%で前年より大幅減少

・・・P7-8

▶「ハロウィーン」に肯定的な理由、1位「本来の意味と違って日本風を楽しめば良い」34.6%、2位「子どものお祭りとして良い」29.4%、3位「経済効果がある」27.6%。昨年4位の「経済効果がある」は3位に振り返り咲き。

▶「ハロウィーン」に否定的な理由、1位「自分には関係がないように思う」47.7%、2位「何かと理由をつけて騒ぐのは良くない」33.5%、3位「新型コロナウイルス感染症の感染拡大につながりそう」29.2%。前年1位（49.5%）の「新型コロナウイルス感染症の感染拡大につながりそう」は20pt以上減少。

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

2022年10月14日

調査概要と回答者プロフィール

- ◎調査名 外食市場調査（2022年8月度）
- ◎調査方法 インターネットによる調査
首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査（外食マーケット基礎調査）の中で、ハロウィーンに関連した飲食・パーティー・イベントの参加状況や参加意向、今年のハロウィーンは誰とどのように過ごしたいか、新型コロナウイルス感染拡大の影響、ハロウィーンに対する考え方などを聴取。
- ◎調査対象 首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県）、関西圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県）、東海圏（愛知県、岐阜県、三重県）に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）

■事前調査

- ①調査目的 本調査の協力者を募集するために実施
- ②調査時期 2022年7月20日（水）～2022年8月1日（月）
- ③調査対象 首都圏、関西圏、東海圏に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
- ④調査内容 本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
- ⑤配信数 506,605 件
- ⑥回収数 32,797 件
- ⑦本調査対象者数 14,789 件

- ◆本調査対象者の割付について
 - ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付を行って回収した。
 - ・性年代別10区分×地域別25区分（首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分）＝250セルについて、令和2年国勢調査人口（総務省）に基づき割付を行った。
 - ・本調査の目標回収数は、首都圏4,000s、関西圏2,000s、東海圏2,000s、合計8,000sとした。

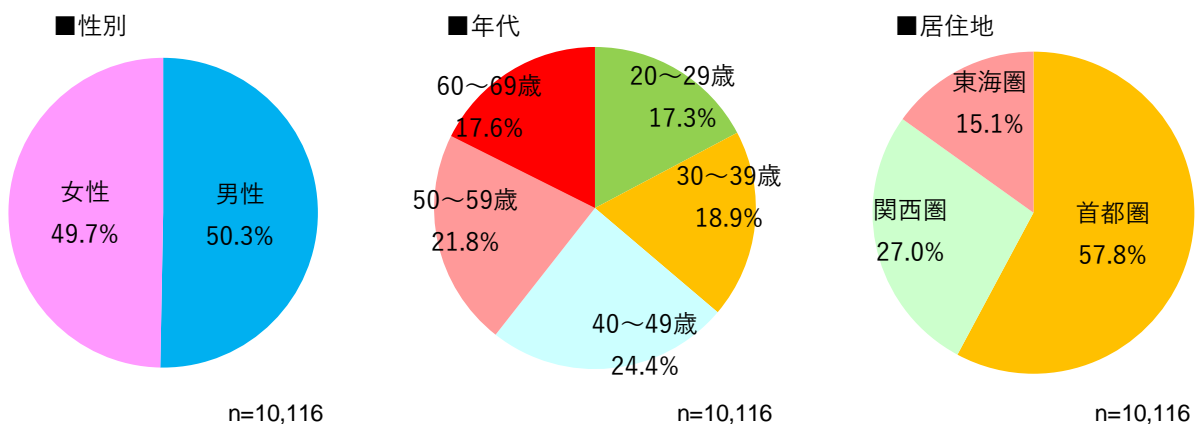
■本調査

- ①調査方法 ・事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
- ②調査期間 2022年9月1日（木）～2022年9月12日（月）
- ③配信数 12,522 件
- ④回収数 10,220 件 （回収率 81.6 %）
- ⑤有効回答数 10,116 件 （首都圏 5,173 件、関西圏 2,723 件、東海圏 2,220 件）

※回収された票のうち、自由回答コメントから、趣旨に合わないと判断された票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1カ月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

- ◆集計方法について
 - ・本調査結果は、令和2年国勢調査人口（総務省）における割付（性年代別10区分×地域別25区分＝250セル）別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計を行っている。
 - ・補正後のサンプル数は次の通り。
3圏域・計 10,116 件（首都圏 5,850 件、関西圏 2,736 件、東海圏 1,530 件）

◆回答者プロフィール（ウェイトバック後）

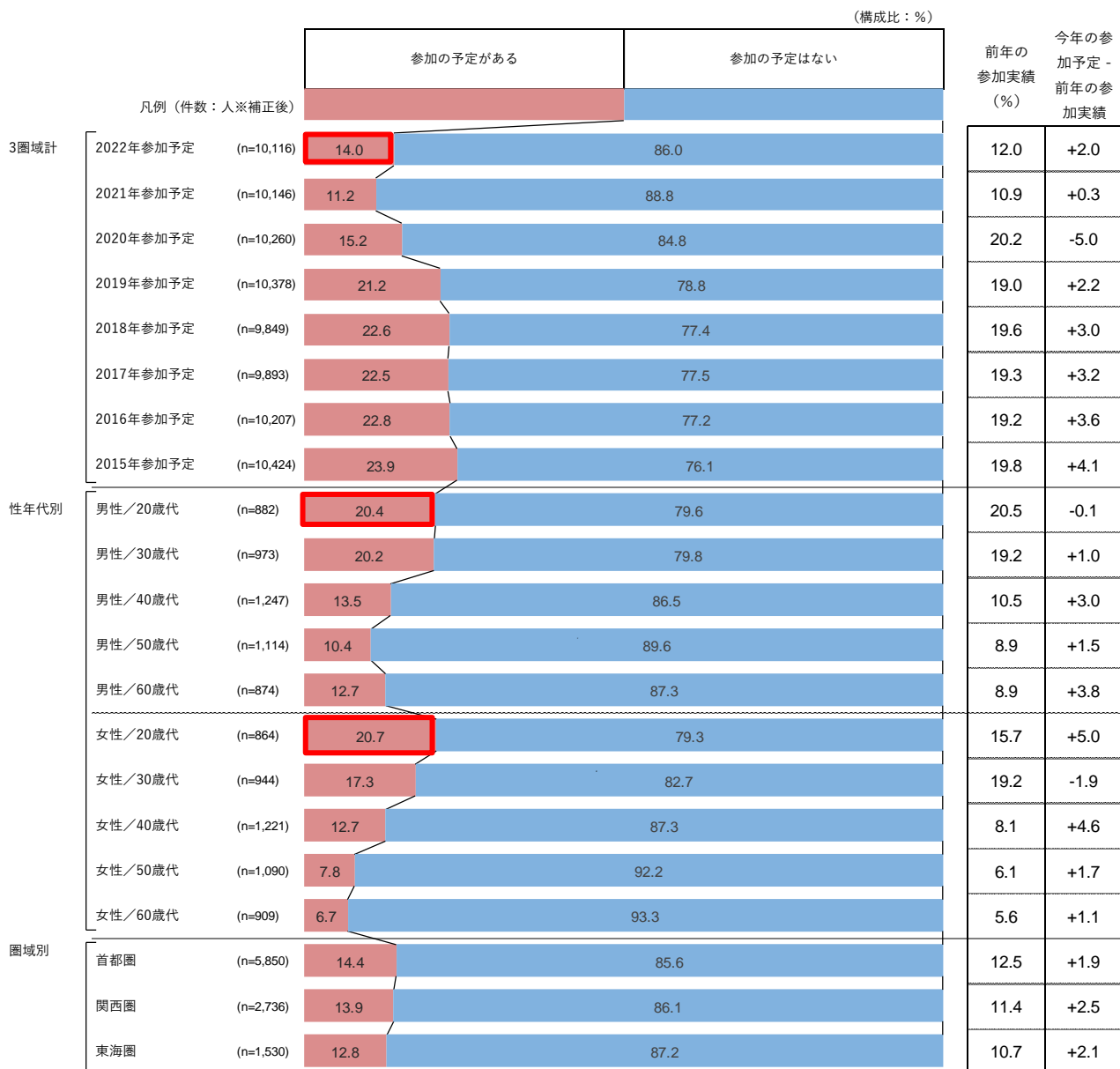


2022年 10月 14日

1. 2022年「ハロウィーン」行事参加予定者は14.0%、前年参加実績を2.0pt上回る

コロナ禍の影響でこのところ以前ほどは盛り上がっていない印象のある「ハロウィーン」。2022年の行事参加予定については3圏域計で14.0%と、コロナ禍となって2年目の前年の参加実績12.0%（2022年に調査）と比べると2.0pt上回る結果となっている。今後、再び緊急事態宣言の発出等で行動制限がかからなければ、2021年を底に回復する可能性がありそうだ。参加予定率が最も高かったのは男女とも20代で、20代女性では20.7%、20代男性では20.4%が参加予定と回答している。前年の参加実績と比べると、20代女性では実績（15.7%）を上回っている。

ハロウィーンに関連した飲食、パーティー、イベントについて、今年の参加予定（全体／単一回答）



※「参加予定」の各データは、当年度調査で聴取した、当年度の「参加したい割合」を示す。

※「前年の参加実績」の各データは、当年度調査で聴取した、前年度の参加実績を示す。

※「今年の参加予定 - 前年の参加実績」の各データは、当年度調査で聴取した、「当年度の『参加したい』割合」 - 「前年度の参加実績」で算出。

※「参加の予定がある」：『今年参加したいハロウィーンに関連した飲食、パーティー、イベント』の「自

2022年10月14日

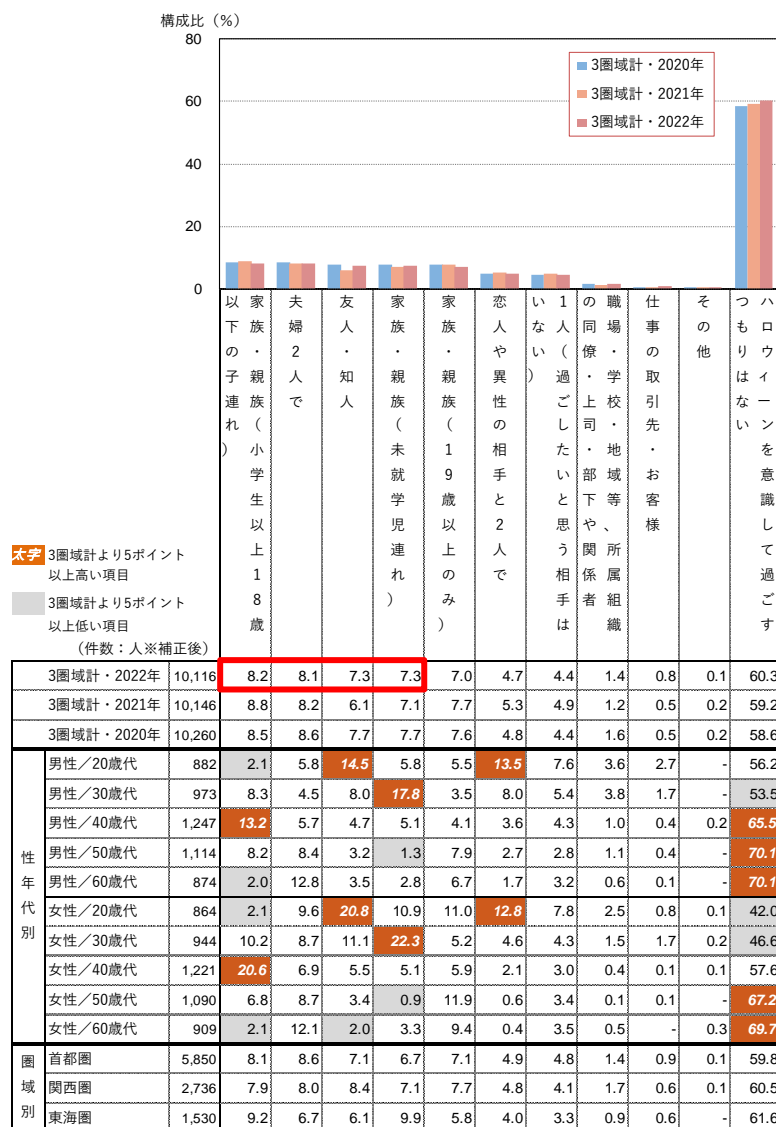
分が企画・呼びかけしようと思っているもの」「企画はしないが参加しようと思っているもの」で、いずれかのパーティー、イベントに「参加したい」と回答した人を集計

※「参加の予定はない」：『今年参加したいハロウィーンに関連した飲食、パーティー、イベント』の「自分が企画・呼びかけしようと思っているもの」「企画はしないが参加しようと思っているもの」ともに「参加の予定はない」と回答した人を集計

2. 2022年の「ハロウィーン」を一緒に過ごしたい相手は「家族・親族」が中心

2022年の「ハロウィーン」を誰と過ごしたいか聞いた。「ハロウィーンを意識して過ごすつもりはない」以外は僅差で、1位は「家族・親族（小学生以上18歳以下の子連れ）」で8.2%、2位は「夫婦2人で」で8.1%、3位は「友人・知人」「家族・親族（未就学児連れ）」がともに7.3%であった。「友人・知人」は前年の5位から順位を上げており、コロナ禍となって以降、引き続き「家族・親族」で過ごすスタイルが中心ではあるが、自粛モードからの変化の兆しが見られる。

今年のハロウィーンは誰と過ごしたいか（全体／複数回答、2020年からの設問）

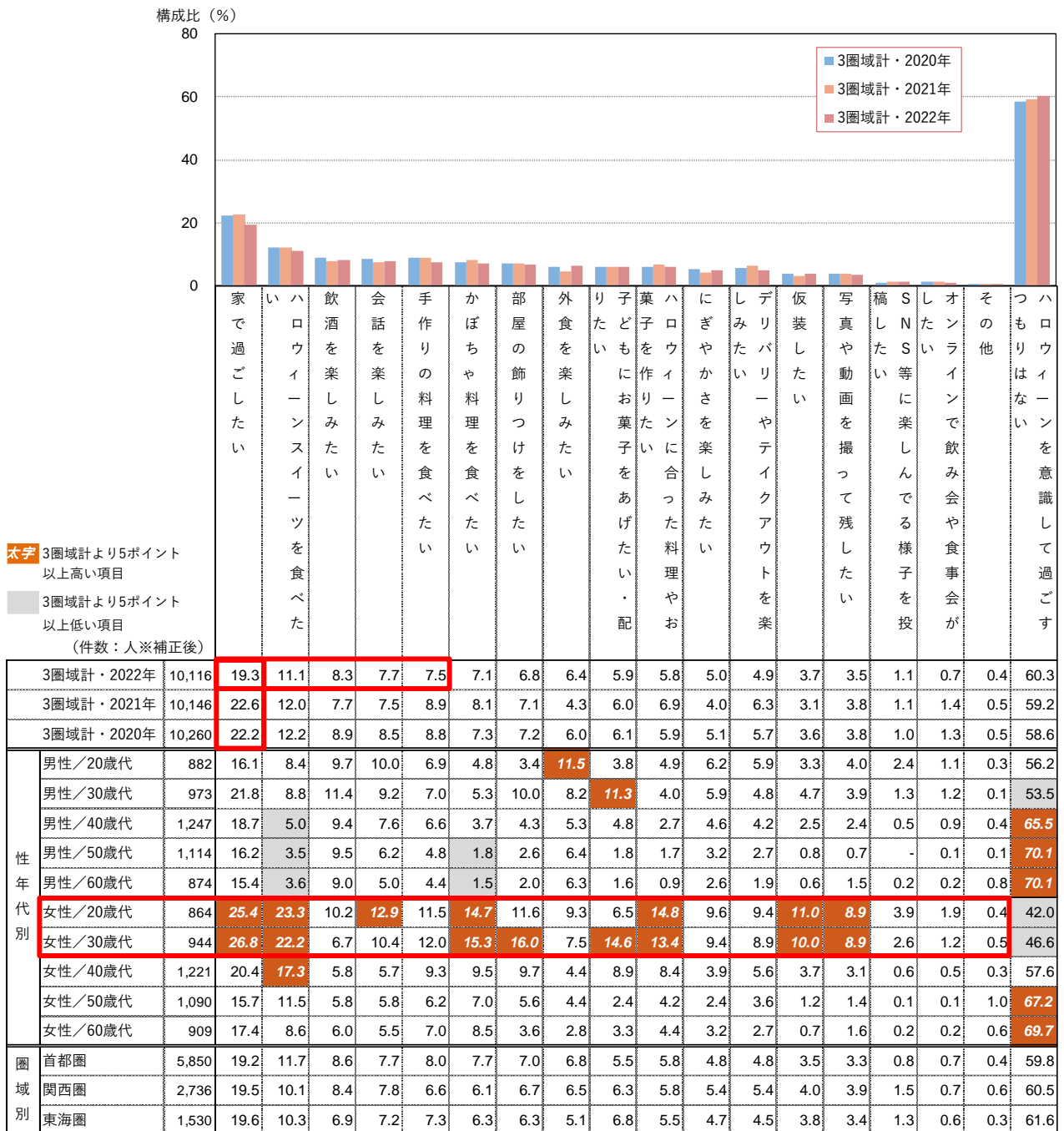


2022年 10月 14日

3. 2022年の「ハロウィーン」、過ごし方の希望は「家で」「スイーツ」「飲酒」等

2022年の「ハロウィーン」の過ごし方の希望を聞いた。「ハロウィーンを意識して過ごすつもりはない」以外でのトップ5は、1位は「家で過ごしたい」で19.3%、2位は「ハロウィーンスイーツを食べたい」で11.1%、3位は「飲酒を楽しみたい」で8.3%、4位は「会話を楽しみたい」で7.7%、5位は「手作りの料理を食べたい」で7.5%。「飲酒を楽しみたい」は前年5位から順位が上昇。「家で過ごしたい」の回答割合がコロナ禍になった過去3年で一番低いことから、外出する人が増える可能性もありそうだ。また、例年通り20・30代女性では様々な過ごし方への希望があるようだ。

今年のハロウィーンはどのように過ごしたいか（全体／複数回答、2020年からの設問）



※3圏域計・2022年の多い順にソート

2022年 10月 14日

4. コロナ禍の影響を受けて選んだのは「家で」「デリバリー・テイクアウト」「外食」等

前ページで希望する「ハロウィーン」の過ごし方があった人（4,018人）に、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて選んだものを聞いた。「新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けていない」以外でのトップ3は、1位は「家で過ごしたい」で24.8%、2位は「デリバリーやテイクアウトを楽しみたい」で5.3%、3位は「外食を楽しみたい」「手作りの料理を食べたい」がともに5.1%。「家で過ごしたい」「デリバリーやテイクアウトを楽しみたい」は前年から回答割合が減少している一方、「外食を楽しみたい」は回答割合が増加して前年8位から5つ順位を上げており、コロナ禍での外出自粛モードを解除する兆しがここでも見られる。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて選んだもの（「今年のハロウィーンは、どのように過ごしたいか」のいずれかの回答者／複数回答、2020年からの設問）

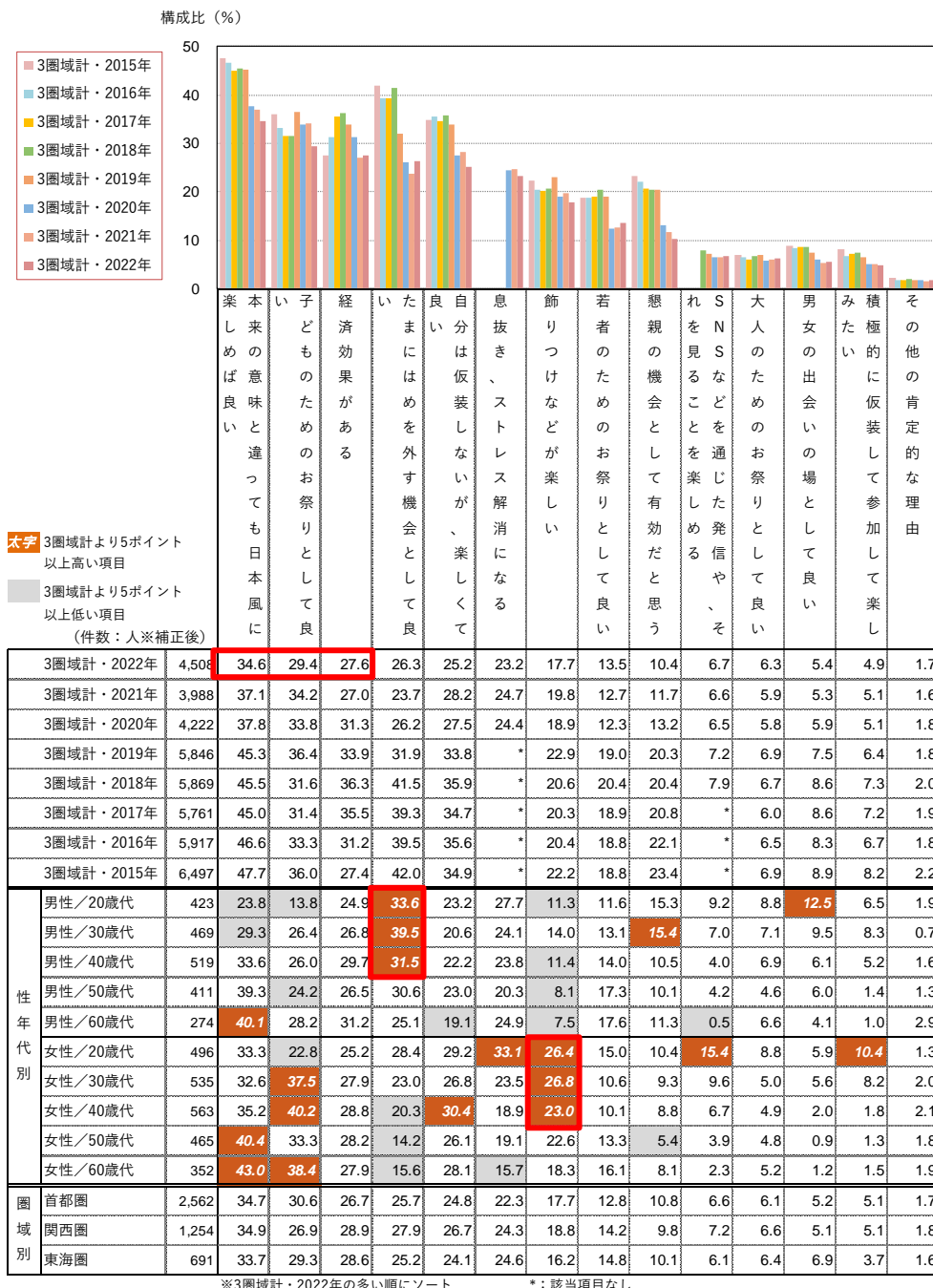


2022年 10月 14日

5. 「ハロウィーン」に肯定的な理由、「経済効果」はトップ3に振り返り

「ハロウィーン」に肯定的な人が答えたその理由は、1位は「本来の意味と違って日本風にも楽しめる」で34.6%、2位は「子どものためのお祭りとして良い」で29.4%、3位は「経済効果がある」で27.6%。前年4位であった「経済効果がある」は3位に振り返った。性年代別では、20～40代男性で「たまにはめを外す機会として良い」の回答割合が高く、20～40代女性では「飾りつけなどが楽しい」の回答割合が高い。世代差や男女差が大きい結果となっている。

「ハロウィーンについての考え」肯定的な理由（肯定的な理由のいずれかに回答した人／複数回答）



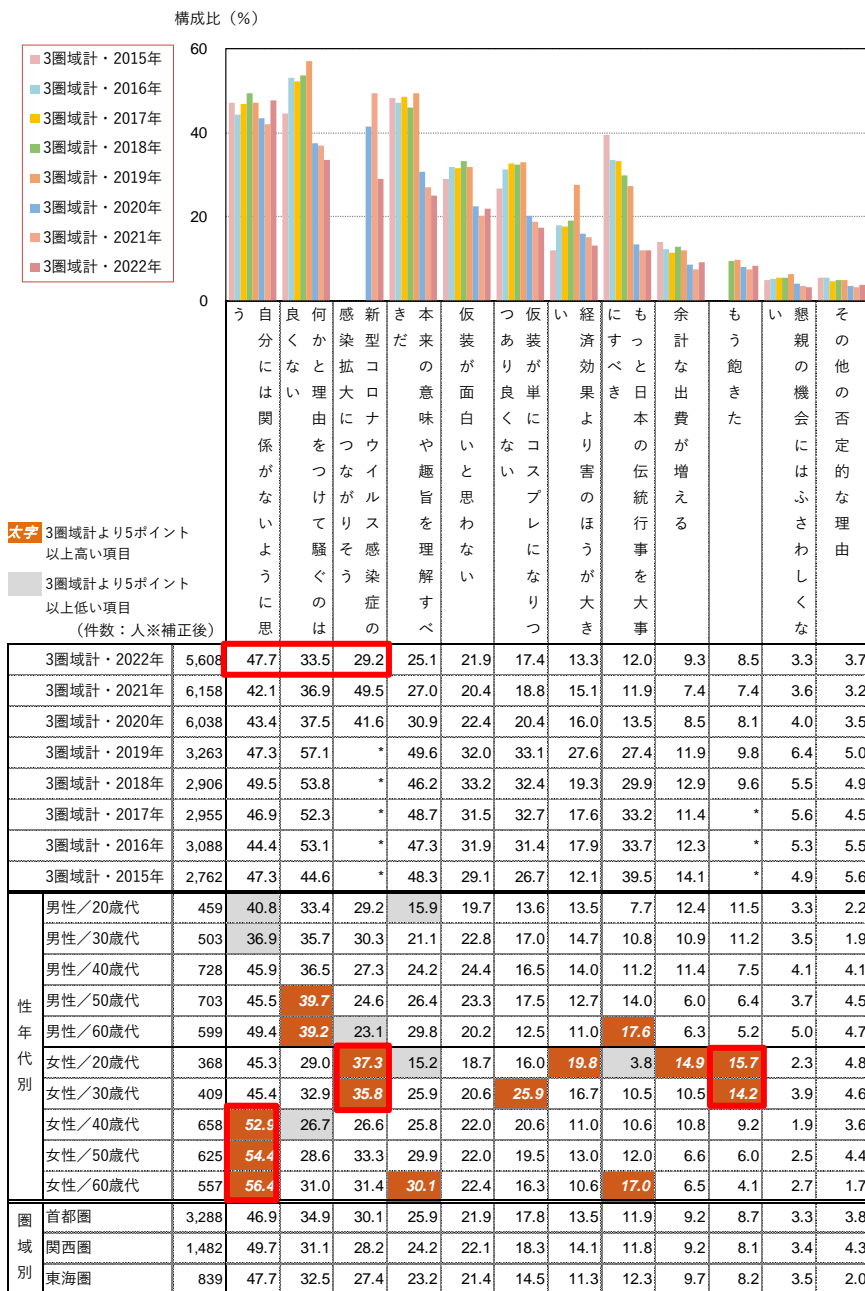
※2020年以降は設問構成を変更しているため、経年比較は注意が必要

2022年 10月 14日

6. 「ハロウィーン」に否定的な理由、「感染拡大危惧」29.2%で前年より20pt以上減少

「ハロウィーン」に否定的な人が答えたその理由は、1位は「自分には関係がないように思う」で47.7%、2位は「何かと理由をつけて騒ぐのは良くない」で33.5%、3位は「新型コロナウイルス感染症の感染拡大につながりそう」で29.2%。前年1位の「新型コロナウイルス感染症の感染拡大につながりそう」（前年49.5%）は20pt以上回答割合が減少した。性年代別では、40～60代女性で「自分には関係がないように思う」の回答割合が高く、20・30代女性では「新型コロナウイルス感染症の感染拡大につながりそう」や「もう飽きた」の回答割合が他の性年代よりも高かった。

「ハロウィーンについての考え」否定的な理由（否定的な理由のいずれかに回答した人／複数回答）



※2020年以降は設問構成を変更しているため、経年比較は注意が必要

2022年 10月 14日

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>